2018/07/01(日) JAKEHS 東ブロック定例会

1330～	HP 活性化
1400～	杉並総合の2年目が熱い！
1445～	進化するハングル検定！
1530～	ネタ紹介
1630～	全国大会に向けて

0. HP 関連

4 月からのコンテンツ収集係難しい点

①外に出していい悪いに資料か悩んだ。

②モイムに出席してる人だけの情報になる、偏りがある。

③ホームページが対外的なものか、内部向けのものかしっかりはっきりさせるべき。

・会員向けページ&対外向けページ最初から分けるのはどうか。（武井、田附）

・会員向けページにどのようなニーズがあるか要検討。（田附）

・目的がないと教材集めても、後で見てよくわからないものが多い。（武井）

④プライバシー問題

⇒名前を出すか出さないか。名前が出てると今後教員にとって不利益になることが多い。

提案

①ブログ形式のホームページを作成するのはどうか。

⇒リンクを共有することがより容易。（齋藤）

⇒記事執筆をお願いすることで、より多くの方に情報発信の機会がいく。（齋藤）

⇒まず実験的に東でやって、西に広げる？実際にやってみて、判断する。（齋藤）

②ホームページよりも Facebook などを活用するのはどうか。

⇒Facebook では授業の近況報告使いやすいと思う、限定グループにすれば良い、それが盛んになればメーリングリストを使うこともなくなる

③オフィシャルサイトがあって、内的なものがあると良い。

⇒ニーズ、コンテンツについて課題（山下誠）

⇒指導案の共有はどうか、授業の流れ（鄭）

⇒テキストが同じだったらいいけど、バラバラだから見ないのでは？（田附）

⇒課題があって、その目標に向かってひとつの指導案つくる等、できるかもしれない（齋藤）

⇒教材というよりは情報の共有の方がむしろニーズがあるのでは？？
イベントや研修、ツール等。（齋藤）

⇒テーマごとにアイデア、情報、流れを挙げれば良いのではないか。

教科書は違っても、過程は共通しているので使えるはず（金、鄭）

まとめ

①とりあえず仮のものをつくってみるのはどうか。それから議論をする。（武井）

②ホームページに会員限定というところをつくる。

また鍵かけ、セキュリティを強化する。（武井）

③ホームページの刷新が必要というアドバイスはいただいたが、

誰がどう管理するのか。ホームページの重要性。（山下誠）

＜ここから本編＞

1. ハングル能力検定協会ご紹介

2. 杉総があつい！

2-1. 発表

資料参照

最終的に(年度末)パフォーマンス課題

ハングル 1 では厳しいが

①最後自己紹介させる(入門以外)

②ハングル 2 では夢を語らせる、ゲストに逐語訳をさせる

2-2. 質疑応答

・既習者は大丈夫かもしれないが、初習者には難しい部分がある。

1 年～3 年までならワークブックつくってひたすら書かせるやり方もある。

1 年でどれぐらい伸びたかという客観データがあれば良い。（黒澤）

⇒生徒が何をどこまでできたか、明確な到達目標を出せるかということを考えたとき、

分析的なことはやってないのが実態である。（山下誠）

⇒項目ごとに調査すれば出る可能性がある。（齋藤）

⇒4 技能別問題つくればいいのかもしれない、（山下誠）

⇒都教委の指導主事の立場であれば、1 年でどれだけ到達したかデータ出せ、と言うであろう。

管理者がきちんとデータ化、蓄積してないと次につながらない。生徒がどこまでできたのかを示すべき。（黒澤）

⇒ルーブリック評価が考えられるが…。正確に測るテストがないのが現状。（山下誠）

⇒検定試験などを年度ごとに行うなど、管理者がそのような機会を設けるべきでないか。（黒

澤）

・各校、テストの実施具合はどのようになっているか。

⇒大会・試験→個人の頑張りとなっており、楽しさ重視でこれまでやらなかった。

授業の頑張りを知りたくて、今年から小テスト実施。（金）

⇒毎回小テスト、全 7 回＋期末。文字に慣れることが目標としている。

去年は文字の要望が多かったので、今年は文字をゆっくりやってみている。小テストの結果がかなり良かった。（鄭）

⇒授業前に必ずアンケートをとって、どういう目標で来たのかということを聞いている。（金）

⇒小テストを必ず行っている。終わるごとに 10 問ぐらい。記述を出したら、日本語で書く問題を出したら正答率低かった。 例) 아/ 어 の違いは何か（田附）

⇒そういう問題はかなり大事！！いい問題！韓国語を教えられる、ということにつながる。（黒澤）

3. 進化するハングル検定！

3-1.発表

資料参照

배우기 最新版を頂きました。

3-2. 質疑応答

・現場のニーズにもつながる、接点にもなる部分だと思う（山下誠）

・検定のニーズは高校生にもある

TOPIK とハン検の選択肢を出すと、まずハン検はやはりとっかかりやすい。

ハン検は TOPIK に比べてちゃんと勉強しないと取れない印象、TOPIK はとっつき やすいと思う。しっかり勉強しようとなるとペウギやらないといけないけど、なかなか勉強する高校生いない。やはり検定試験はモチベーションにはなる。（田附）

・学生時代、ハングル検定合格が自分の自信になった。勉強していく中で、1 級を取るのは不必要論は出たが、極める意味でも必要だと思う。（齋藤）

・授業では 5 級の範囲が終わらない。5 級以下の内容もあればいいのに。（齋藤）

・成果を出せ、と言われたら検定がいいと思う。英語のように、ジュニア検定があれば良さそう。（鄭）

⇒現在検討中

9 万人の受験者数に対し高校生は 400～500 人ぐらい。
現在そこ対象に内容検討中。（ハングル検定）

・この問題は 4 級でもいいのでは？ということが多い。（田附）
・TOPIK との連携を検討してほしい。
コミュニケーション測る問題を増やしてほしい
ネイティブからしてもほとんど使わないような語彙が多い気がする。（鄭）

・協会さんは高校生に受験してもらいたいのか。実際は 2 万～3 万の高校生が勉強している。到達度テストとして考えられているのか。（黒澤）
⇒今まで疎かにしていた部分があったので、今回参加させていただいた。今後は日本の高校生向けの試験も検討したい。（ハングル検定）
⇒入試改革により外部試験の導入も検討されている。ハン検も今後導入につながれば、と思う。それに向けても、今後お互い協力体制がつくれる下地があるのか？（黒澤）
⇒5 級に達するのはまず難しい。なのでジュニアレベルのものをつくらないといけないのでは？というのを、現場調査でもわかった。HSK、英検もジュニア検定があるので。実現に向けてお話したいという気持ちがある。高校生だと割引がある。具体的な話にまで持っていけたら良いなとは思っている。（ハングル検定）
⇒英検に合わせて日程を決めるべき。英検も問題等をいろいろ変更してくるのもある。国内の大学受験では TOPIK とハン検を併記している。片方だけ。（黒澤）
⇒ハン検は国内で有利ということにメリットを感じられるようにしたい。
（ハングル検定）
⇒5 級で大学受験に結びつくところはない。だいたい 4 級。(英検準 2 級)つまり高校生は 4 級まで頑張れば、受験にもつながるよという状況にしないといけない。なんとか 4 級を取れるような環境に。（黒澤）
⇒検定では日本の現状をこれまで知らなかった。高校生がどんなテキストでどう勉強しているのかを知りたい。引っかかるところ等。5 級で高校生では難しいことも実感した。（黒澤）

・武井先生の新聞記事をハングル検定の方が見たことをきっかけに、接点が生まれた。ペウギができたことも画期的だった。具体的な提案がこちらからできるようにしたい。これからお互いどこまでできるのか？というのが、課題。ワーキンググループ的なものが必要？（山下誠）
・韓国語は文科省検定教科書、指導案というのがないのが問題。なので議論の仕方から考えないといけない。断片的に授業や試験の様子を並べてから、やらないといけない。
⇒東ブロックでテキストをつくることはできないか。（鄭）

・指導している側としては、TOPIK は教えやすい。共通問題で何点取れば OK だが、ハング

ル検定はどうだろうか。（金）

⇒レベル別に問題が違う。ハン検→TOPIK→ハン検というやり方も可。

（ハングル検定）

⇒個人的にはハン検は教えやすい、級ごとにやることがはっきりしている。（齋藤）

・首都圏の高校生が受ける受けないのは、教員のアナウンス次第。学校でやる以上は受けさせろという管理者もいる。プレテストのモニター募集でやって、それから考えないと先進まないと思う。2020 にも間に合わない。（黒澤）

・学習 1 年後の 6 月に準 5 級受験想定している。3 年生が内申に書ける最後のチャンス。より効果的に行うのであれば、そのようなスケジュールが理想。（黒澤）

・40 時間で 5 級の設定にしている。

⇒現状難しいと思う。具体的な内容は別テーブル設けて話す

4. 近況報告・発表（新しい先生を中心に）

4-1-1. 神奈川県立商工高校　山下　賀子　先生

・今年度はハングルの文字から教えた。

・以下のようなイメージと結びつけてハングルを教えている。

ㄹ＝ラーメンどんぶり

ㄷ＝ダンブカー

ㅂ＝バッグ

ㅇ＝アンパンマン

ㅈ＝ジャンプ

ㅎ＝フタ

・使用教科書としては以下のものを取り入れ始めた。

「手と目で覚えるハングルレッスン

―子どもから大人まで楽しくハングル文字が学習できる」

韓　恵景著、国際語学社、2003 年。

`4-1-2. 質疑応答

・ㄷ＝ダンプカーだと無声音の場合はどう説明しているか。（鄭）

⇒「トラック／ダンプカー」でいずれの場合も対応可能。（山下）

・試験問題の問7に生徒がどれだけ回答できたかが気になる。（田附）

・かたかな表記の場合、テストではどのように出題しているのか。（田附）

・感想のうち、「ん」のパッチムが難しいとの意見があるが、

テスト問題には出題されているか。

⇒9-4 で出題している。（山下）

・まずは基本母音をしっかりと押さえたいと考えて、授業を行っている。

4-2-1. 啓明学園高等学校　権敬殷　先生

・高校で教えるのが初めてのため試行錯誤しながら授業をしている。

・前期の授業は発音練習を重点的に行った。

・毎回、小テストを行っている。

・カナダ人のネイティブ教員と協力しながら授業を行ったこともあった。

・ついてこれない子のボトムアップを図りたい。

・生徒対応に悩むことがあるが、JAKEHS のほかの先生の実例を知りたい。

・文字指導をどのように行うのか、好事例を知りたい。

4-2-2. 質疑応答

・試験問題で、フォントが異なる部分があるが、あえてそうしているのか。（齋藤）

⇒様々なフォントに触れてもらうため、そうしている。

また、様々なフォントがあることを事前に授業で説明している。

・生徒対応については、生徒がタメロでも気にしない。

今はまるで友人のように接しているが、逆に好感を持たれているという印象を受ける。（鄭）

・試験問題で、平音・激音・濃音の問題については、どういった意図で出題しているか。